

JR単独では維持困難とされた13線区。日高線や根室本線の新得・富良野間などの5区間はバス転換、釧網線、花咲線は自治体の負担で残したいが5年ごとに見直して、採算が合わなければバス転換も。直後に否定したとはいえ、これがJR北海道の本音です。

■JR北海道の経営赤字をどう見るか？

1、国の責任は重大

原因は分割民営化です。北海道の鉄道が赤字になることはわかっていました。赤字で十分な安全対策ができずに事故。不通で利用者が減少。この悪循環です。しかも、赤字を補てんするはずの経営安定基金の利率は7.3%から3%半ばまで急落。大企業のための超低金利政策の影響です。

2、北海道新幹線の大赤字

大赤字の原因は年間100億円を超える新幹線の赤字です。赤字幅は前年の2倍!!-新幹線の赤字を埋めるために地方ローカル線を切り捨てるなど言語道断です。

3、廃線ありきのJR経営陣の責任

JR北海道の経営陣は公共交通を担う自覚を持たず、「最終目標は株上市場」「赤字路線切り捨ては当然」との立場に立っています。保安要員もどんどん減らし、事故の多発と運休を招く結果になっています。

■これからどうするか？

国の責任で赤字の補てんや老朽施設の更新のための「公共交通基金」を創設します。その財源はガソリン税や、黒字となっているJR本州三社の利益の一部を組み込みます。この基金で公共インフラとしての北海道の鉄道を守ります。(共産党のJR問題の提言より)

また、自治体ぐるみ、北海道ぐるみで、「鉄道守れ！」の運動をつくります。住民ぐるみの反対運動が高まれば、JRは廃線を強行できません。

来年の知事選で、鉄道を守る知事を誕生させること、統一地方選挙・参議院選挙で共産党議員を増やすことも大切です。

村上市議(党釧根地区委員長)の開会あいさつの中で、西日本の豪雨災害に対する救援募金を訴えて、6万5千円余の募金が寄せられました。



村上かずしげ 7.22 通信

発行 共産党釧路市議団23-5212

畠山和也さんを講師に

JR北海道廃線問題講演会を開催

JR問題の根っこには、JR発足にあたって国労・全動労組合員1047名を採用差別、解雇した問題があります。札幌駅前で開催された解雇撤回の集会に保育園に通う娘さんと参加した畠山さん。降りしきる雪のなか、じつとがまんして立っていた娘さんが「パパはたくさん友達がいるんだね」とポツリ。小さな子どもでも、ハッキリ真偽がわかる

七月十三日、共産党の畠山和也さんを講師に、JR問題についての講演会が行われました。(主催は日本共産党釧根地区委員会)で、JR問題の政策検討の中心を担ってきたのが畠山和也さん。「JR問題で懇談した首長の人数は、高橋はるみ知事より多い。」というように、JR問題を語るには最適の講師です。



かる問題を、大人がごまかしてはいけません。そんな思いでJR問題に取り組んでいる畠山さんです。(講演の要点は左の記事をご覧ください。)

鉄道は国民の交通権の要 道民みんなで鉄路を守ろう

2019年参議院選挙

紙 参議院議員
智子



前衆議院議員
はたやま和也



参院選 投票方法 解説

2回投票します

1回目 比例代表選挙は政党名

2回目 日本共産党

選挙区選挙は候補者名

※候補者名も投票をします。

比例代表 (記号例)